

大きくなあれ わたしの野さい ～生活科の実践を通して～

目 標

- ・身近な野菜の栽培に関心を持ち、世話の仕方を調べ、継続して取り組むことで、生命や成長に気付き、愛着をもって育てることができる。

育てたい力

- 野菜の収穫を楽しみ、変化や成長の様子に関心をもつことで、継続的に世話をしたり、気付いたことを表現したりする。
- 植物の変化や成長の様子、それらが生命をもっていることに気付き、上手に世話をしている自分に気付いたり、感謝して食べたりする。

主な学習活動（生活科：9 時間、学活：1 時間）

野菜を育てよう
種の観察
（7 月）

- ・栄養教諭から野菜の栄養について教わり、種を観察しながら、野菜を育てることに思いや願いを高めた。
- ・枝豆、ジャガイモ、ニンジンなどの野菜から好きなものを選択し、野菜の育て方を試しながら必要な世話を考えた。



栽培体験

（6～8 月）

- ・栽培した野菜の成長を継続的に観察したり記録したりすることで、野菜に対する思いや願い、気付きなどをまとめた。



収穫体験
さとらんど
（8 月）

- ・さとらんど子ども学習農園で夏野菜の収穫体験と調理体験をし、調理したピザの試食した。



野菜収穫
パーティー
（9 月）

- ・自分たちが栽培した野菜の成長を喜び、感謝しておいしく食べた。



取組を終えて

子どもの声（感想）

子どもからは、「野菜を愛情をこめて育てたい。」「野菜が大きく育っていて自分の身長では届かなかった。」「野菜は重たそうに見えたが、赤ちゃんくらい軽かった。」「2、3 粒だけ植えたのにいっぱいが増えていた。」「野菜はふわふわで、ずっと食べていたい。」「自分たちで作ったジャガイモは特別でとてもとても美味しかった。」といった感想が寄せられた。

取組の成果

担任と子どもの学びに加えて、栄養教諭やさとらんど子ども学習農園の北瀬さんとの関わりにより、子どもにとって豊かな体験をすることができた。また、子ども農園での体験活動を生かし、学校でも自分たちが育てた野菜を簡単な調理をして、栽培して調理して食べる、ということの楽しさや喜びを実感することができた。このように体験と表現を繰り返し、気付きを積み重ねていくことで、子どもの学びを深めることができた。

体験先、関係機関

サッポロさとらんど（札幌市）